



ジャンボにんにくをざくざく切って、さっと油で炒め、しょうゆで味付けしました。においも少なく、手軽でおいしいですよ。



農民連が第17回全国大会

農民連の全国大会が開かれました。前回から2年に1回の開催となつて、2年ぶりの開催。全国各地から400人が参加しました。

初日に催された記念レセプション「全国ふるさと自慢」は圧巻です。なにしろ料理も酒も持ち寄りばかり。47都道府県すべてからの自慢の料理・産品がテーブルをにぎわし、

参加者のお腹を埋めました。

もちろん会議の中身。日本の食料と地域の農業を守り発展させようとがんばっている仲間からの発言には元気があふれていました。そのなかの一人、初めて参加したという青年の発言が耳にとまりました。

“昨夜のレセプションをみるまでもなく、日本ではどこでも農産物を

生産できる。農学部出身だけれども、なぜ自給率が低いのか大学では教えてくれなかった。北朝鮮より自給率が低いってことは、それほどに政治が悪いということではないのか”

と思いを語り、さらに

“大規模な流通にのせて出荷している生産者は元気がない。小さな流通、大きくても心が通う産直に取り組んでいる人はいい顔をしている”

と、日々の実感をこめて聞く人を励ました。

強風被害を福となす 開き直を楽しむ

さる1月7日の凄まじい風で、育苗ハウスが潰されてしまったことは前号でお伝えしました。建ててから、わずか7年でした。(大損害)

じつは、この間の育苗作業。芽が伸びたところで苗代全体に湛水するやり方で、昔でいう「水苗代」を再現してきました。なので、ハウスなどなくても、初期の保温シートの二重被覆と、後半は不織布ネットくらいでいけるのではないかとみています。

というわけで、ハウスを建て直すカネがないと落ち込むのではなく、昔ながらの技術と新しい素材を組み合わせる機会にしたいと開き直っているところです。

さらに、自宅の裏の木が倒されたことも報告しました。ありがたい

ことに、すぐに友人I氏がチェーンソー持参でかけつけてくれて、屋根の上に覆い被さるように倒れた大木を切り刻んで片づけてくれました。さらに近所のSさんが、半分に割った面にカンナをかけてくれました。

と、友人や近所の人にも助けられ、その成り行きと勢いそのまま今度は自分で半日かかって皮をむいて、写真のとおり本格好立派なログテーブルが完成しました。なんてたって100年ものの総ヒバづくりです。(誰です? ジャマくさいなんて言ってるのは)

